

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3272100284		
法人名	(有)はるひ福祉サービス		
事業所名	はるひ苑津和野		
所在地	島根県鹿足郡津和野町寺田67番2		
自己評価作成日	平成27年10月9日	評価結果市町村受理日	平成27年12月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://x.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=327">x.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=327</a>
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成27年10月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

事業所の理念「ゆったりと楽しく自由にのびのびと残された力で暮らしの喜びと自信を」を軸にはるひ苑津和野は今期目標に「伝統、風習を多く取り入れ一緒に作り、活用し、日々を楽しく過ごす」と称し毎月、時節に合った生活作業に取り組んでいます。そして入居者の方々から伝統、風習を聞き取り一緒に作り出す楽しさ、達成感を味わっていただいています(例:夏場は数種の野草摘みをし、「野草ブレンドティー」として、年を越すほど多くでき、毎日味わっています)。又、職員は認知症に対する知識、理解をさらに深め同じレベルで支援できるように多くの研修参加に努めています。保育園及び地域交流も広まり挨拶、声かけも沢山いただき今では積極的に出向いており今後もぜひ継続していきたいと思っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

その人らしさが活かせる様に、ありのままゆったりとした毎日が送れる様に、との思いで支援している。運営推進会議には公民館館長、児童館館長、民生委員、家族会会長、他のグループホームからの参加者もあり、地域の事業所として活動している。今年度は地域版のたよりを1600部発行し、事業所の内容と利用者の様子を紹介し、認知症介護相談窓口の案内も行い良い反応を得ている。中学生の職場体験、外国からのボランティアを受け入れたり、児童館との七夕会では地域の人から竹を貰い一緒に飾りつけを行った。職員のケアの質の向上に努め積極的に研修を行っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り、モニタリング、カンファレンスの際、職員全員で理念を唱和し、各自が意識の再確認を話し合い、実践につながるように努めている。利用者さんと共に理念を唱和すると、終了後には手を合わせ「ありがとうございます」の声をいただいています。	常に理念を意識して、人生の先輩として敬い一つひとつの行動にも意味があるものと受け止め愛情、思いやりを持って自由にのびのびと毎日が楽しく過ごせる様に支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事をはじめ、地域の催しに足をはこんでいる。近隣の児童、学生(体験学習)も毎年来苑。ボランティアの受け入れ。地域の一員として催し物には積極的に参加し、交流につなげている。	空き缶拾い、健康づくり大会、盆踊りへの参加や児童館と合同の雛祭り等を一緒に楽しんでいる。高学年に成長した子供達と街で出会うと、今では「はるひ苑のおばちゃん」と声かけをしてくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月のはるひ便りの発行。H27.4より、はるひ便り地域版の発行。地域の人に、より広く発信すると共に、相談窓口を開設。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話し合いの中でご助言いただくこともあり、サービス向上に努めている。状況、意見を把握することでサービス向上につなげていきたい。	利用者の様子を見て貰ったり、災害研修等各研修報告を行ったり、家族から介護保険のことで質問を受ける等、それぞれの立場から意見、助言を貰い話し合っている。会議にはほとんどの利用者が参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場、介護支援専門員、病院の相談員に報告、連絡、各相談を行い、円滑かつ良好な関係を築けるよう取り組んでいる。町が取り組む研修などにも参加し、積極的に協力関係を築くよう心がけている。	日頃から情報提供や意見交換、相談を行っている。認知症介護の視点等について意見交換したり、研修会、学習会の開催等協力して取り組む関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修での共通理解、ケアの実践。毎月自己評価(チェックリストでの振り返り。施錠は夜間のみ。* 防犯のため。日中はいつでも自由に入出りできるようなケアに取り組んでいる。	研修をしたり、自己チェック表を確認し気になる利用者には対応の仕方を工夫して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ドラックロックにも気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修での共通理解、認識により虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方が3名おられる。入居者、ご家族様の状況把握につとめ、必要に応じて活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	会社幹部、管理者を主に、説明、理解を得られるよう図っている。改定時には、書面や家族会にて十分な説明および質問などを受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へのご参加、面会時にはご意見、要望、相談ごと等、お聞きするようにしている。毎月、書面で意見、要望の聞き取りを行なっている。意見、要望には早めの対応、措置を心がけている。運営には反映させるよう心がけている。	家族会があり利用者も会議に参加している。希望を聞いていただければ桜を見に行ったこともあり、家族からは感謝の声が多い。会議報告は返信用の書面も同封し郵送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティング、申し送り時、意見、提案を聞く場を設けています。個別面談なども年間計画に入れ、職員の意見を取り入れるようにしている。意見、提案は聞き入れ、早めの対応に努めている。	常日頃から職員が気持ち良く働ける環境づくりに努めている。新人職員で利用者が戸惑った時でも利用者との関係がスムーズに行える様協力して取り組み、明るい職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価、人事制度を取り入れ、各自、向上心に向けての環境作り。スキルアップ研修も行い、連携のとれたやりがいのある職場作りしよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修や学ぶ機会を多く持つようにしているが、地理的条件から幅広く外部の研修に参加できないことも事実である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員は益田圏域の管理者交流会、津和野地区のオレンジの会での情報交換、町地域包括センターが催す研修等に出席し、講演及び話題の提供や問題点など話し合っている。相互訪問等の活動も取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを傾聴、センター方式の活用により、アセスメントを行い、安心してサービスが受けられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを傾聴。センター方式の活用にご協力いただき、ご家族も安心できるサービス提供ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学時に、ご本人、ご家族の思いや状況を確認し、他職種との連携を図りながら、最善の対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき、残存能力をいかしながら、利用者主体の生活を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送付する便りや、必要時には電話連絡を行い、ご利用者様の様子等をお伝えしている。又、面会時には本人と家族が気兼ねなく話せるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	把握し、継続できるよう努めている。なじみの場所にもなるべく多く足を運べるよう支援している。面会を楽しみにされている方、公民館行事や、他の外出時、知人から声をかけていただいたりしています。	家族の面会があったり、馴染みの場所へのドライブ、祭りに行く等している。成年後見人制度を取り入れてから関係者の来報が度々あり新しい人との関係が出来た人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの思いや、役割を尊重し、互いに支え合えるよう関係作りを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りをさせていただいた家族様とも継続的に関係が保てるように声をかけさせていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思い、志向などを傾聴し、把握するよう努めている。時節に合ったドライブ、稲成神社参拝、買い物など、希望、意向を取り入れている。	ホールにいる時や入浴介助時等、季節や風景の話しながら思いを聞き出し職員間で情報交換し共有している。プレゼントの洋服を出して「これ着て何処行こうか？」等声をかけ、思いや希望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントを行い、入居以降も本人、家族、友人などから情報収集をしている。センター方式を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、チームでの意見交換、記録を通じ一人ひとりの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認しながら、他職種と連携をとり、チーム全体で意見を出し合えるよう努めている。担当者を中心として、又、職員全体とも情報交換し、現状に沿った介護計画作成に努めている。	担当者を中心に情報、意見を介護計画に活かしている。毎月モニタリングを行い体調変化、縫い物等の趣味も計画に入れながら見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	H27.7から、記録様式を変更し、介護計画と連動させることで、より一層、把握・実践・見直しなどに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況・意向を把握することで柔軟な支援・サービスが提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流・良好な関係作りができるよう役場・医療機関、教育現場及び地域の方々に発信している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前と同じかかりつけ医を継続して必要に応じて、眼科、歯科受診の支援を行なっている。月2回の往診に加え、必要時には医療機関に報告・相談をしている。個々の状態、報告を元に、家族の意向をよく聞き入れ、適切な医療受診が出来るよう支援している。	協力病院の医師が認知症に理解があり、緊急時や早期対応に適切なアドバイスを貰っている。眼科医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制で、報告、連絡、相談を適切に行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携を図り、ご家族も含め、情報交換、相談を密に行なえるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の希望に沿えるよう十分話し合いながら、医療機関、他職種との連携を密に取り合い、支援に向けている。家族様には、早め、早めに報告、説明の場を持ち、方針を共有しあって、職員一体となって、支援に取り組んでいる。	利用者、家族の思いを尊重し医師や関係者が十分に話し合い状況に応じた対応をしている。「終末期の意思確認書」で見直しを行いながら全職員で意志統一をし取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内外の研修を行い、職員の共通理解・認識に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間/夜間を想定した訓練の実施。運営推進会議において、役場担当者、公民館長からの助言も活かしながら、対策の検討を進める。災害時の対策について、全職員と共に地域の方々との協力体制のもと、避難につなげたい。	過去に大洪水を経験した事もあり様々な災害を想定し訓練をして避難場所の確認も行っている。車椅子や持病のある利用者の誘導に関して再確認し話し合っている。近隣との協力体制もとられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	”人としての尊厳”をもとに、声かけ、対応を心がけている。尊重と共に感謝の言葉を忘れずに心がけている。	敬愛の念を忘れずに極力傍に寄り添い傾聴している。利用者の気持ちを大切に一人ひとりに合わせた声かけをして毎日が安全に楽しく過ごせる様に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴し、思いをくみとるよう努力している。出来る限り、自己決定・選択が行なえるよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人主体を心がけ、何事も本人のペースに合った、ケアを伝えるよう気をつけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選べるよう環境の工夫や声かけを行なっている。外出時には衣服選びやお化粧品も楽しみとなるよう気配りしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者主体の調理を目指している。利用者同士と一緒に、またはかわるがわる台所に立たれることも増えている。その方の得意、特技に沿って台所に立っていただく。	郷土料理等出来る力に応じて職員と一緒に作っている。車椅子の利用者もその時は立位になって得意な料理を披露して楽しんでいる。利用者が作った味で食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮し、水分も不足がちなならないよう気をつけている。食べ方や時間（一度に食べられない場合は時間をおいてお出しする等）、個々人に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ、対応の工夫を行い、毎食後実施。それぞれにあったケア用具を使用し、保清に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、状況の変化に応じて、アセスメントを行いながら、対応している。オムツ→紙パンツ→布パンツ→とレベルに応じた対応を行なっている。早めの声かけ、対応にて不快感、失敗の軽減に努めている。	食事前、就寝前等、時間を見ながらひとり一人の生活パターンに合わせたトイレ誘導をして不快感にならない様に支援している。病院から入居しオムツからパンツになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昨年から自分たちで摘み取って乾燥させた薬草茶をとりにれたことで、下痢の使用量が減り、自然排便の効果がみられる。適度な水分補給や運動にも気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後から、体調や状況に合わせて、入浴していただいている。自ら希望される方は少なく、こちらからお誘いしている。入浴の声かけを心待ちされる方もおられ、個々にあわせて支援している。	利用者に合わせて声かけをタイミングを見ながら支援している。毎日の希望者もあり夜間入浴も希望がある時は要望に沿って支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、夜間ともに、その時々状況に応じて、休息、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間での共通理解に努めている。変更・中止があった場合は、速やかに申し送り、その後の様子観察、記録などを徹底し、医療連携や必要時には主治医への報告、相談を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月一回のモニタリングで個々の状況確認を行ったり、日々の利用者とのコミュニケーションを通じて、それぞれが役割、楽しみが持てるよう心がけて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭や畑へ自由に出られるよう支援したり、なじみの場所や目的に応じ、なるべく多く外出の機会を持てるよう心がけている。個々に沿った希望を極力、実行できるよう支援している。	町内の散歩、買い物、季節の花見等に行き、「津和野にもこんな場所があったのか」と感動した利用者もいる。野辺の山菜摘みや希望を聞きながらドライブしたり遠出の外出も計画して出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理されている方もあり、外出時には持参し、好きなものや必要品などの購入ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、電話をおつなぎしている。個人の携帯電話をお持ちの方は自由にやり取りができるようにしている。お手紙が届けば返信できるようお声かけやお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう環境面での工夫を行なっている。その時々気候に合わせて自然の光りや音、風などが感じられるようにしている。季節の花を飾ったり、冬至にはゆず湯を行なったりと、季節を感じる工夫をしている。季節を感じる会話、その時節にあった歌など、皆さんと口ずさむ過ごし方を取り入れて支援している。	明るい陽射しが台所、食堂、和室に射し込んでいる。皆で作った作品、行事に出掛けた時や日々の様子を撮った写真等を飾り安らぎと楽しみのある共用空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士で会話など行なえるよう、テーブルの配置など環境面での工夫やそれぞれが思い思いに過ごせるよう状況に合った対応を心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の生活の様子、様式などのアセスメントを行い、なじみの家具なども設置できるようにしている。居室の扉にはご自身の表札を取り付けておられる。なじみのものが活かされるよう、時に、整理整頓を一緒に行っている。	今迄と同じように筆筒の上に布を掛けたり家族の写真やちひろカレンダー、得意な習字を飾り落ち着いて過ごせる様にしている。畳を好む利用者には畳を敷いて押入れから布団の出し入れをして生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リスクマネジメントを行いながら、安全面にも配慮しつつ、個々の自立度に合わせた生活が長く続けられるよう工夫している。		